

2024年度 第1回 OR学会理事会 議事録

日時：2024年4月5日(金) 17:00～19:05

場所：中央大学・オンライン（ハイブリット開催）

出席理事(対面)：山上(会長)，所(庶務理事)，宮川(庶務理事)，堀(研究普及理事)，林(研究普及理事)，後藤(会計理事)，谷崎(支部理事)，鳥海(無任所理事)

出席理事(オンライン)：三好(副会長)，猿渡(副会長)，森永(副会長)，鶴飼(国際理事)，牧野(編集理事)，関谷(編集理事)，辻野(渉外理事)，塩野(広報理事)，佐々木(大会理事)，

欠席理事：木庭(大会理事)

出席監事(オンライン)：三嶋，根本

オブザーバー(対面)：河東（次期監事候補）

オブザーバー(オンライン)：石井(北海道支部長)、古藤(東北支部長)、山下(関西支部長)、李(九州支部長)、桑野(中部支部長)

事務局(対面)：長谷

書記(オンライン)：黒木

【定足数の確認と、オブザーバー参加についての承認】

山上会長を議長として、定足数の確認が行われた。現地参加の理事が8名、オンライン9名。監事2名はいずれもオンライン参加にて、理事会の成立が確認された。

オブザーバーとして次期監事候補の河東さん(対面)および各支部長5名(オンライン)の参加が承認された。

【審議事項】

A-0. 前回議事録の確認（庶務理事）

宮川庶務理事より前回議事録の確認があり、山上会長より訂正などある場合は理事会終了までに連絡するよう依頼された。

A-1. 入会・退会承認の件（庶務理事）

宮川庶務理事より、昨年度の入会・退会状況について説明があった。

山上会長より、学生会員は増えたが、正会員は減ったということだという概要の確認があった。年度通算で入会が120名に対して退会が119名で、下げ止まったとも下げ止まっていないとも言えない、という状況であることを確認。会員の減少はどの学会で

も変わらない傾向だが、勧誘などお願いしたい。

宮川庶務理事より、支部長から支部の幹事等に理事会資料を共有してよいか、という打診があったが、退会理由等の個人情報には支部長止まりとし、共有はしないよう要請が行われた。

引き続き宮川庶務理事より、2024年度の3月25日までの入退会状況が説明された。昨年度より7名減。鳥海無任所理事より、昨年度は3月に流入があったが今年度はその傾向はなかった旨の分析が示された。今後その流れの分が入ってくるかは不透明。最後に入退会者の氏名等一覧を確認し、入退会を承認した。

A-2. 特定費用準備資金計画案の件（無任所理事）

鳥海無任所理事より、資料に従って説明された。

森永副会長より、内閣府の印象が悪いと何が悪いのかという質問があった。鳥海理事より、過去の会計処理において、公益会計を赤字にして法人会計を黒字にしてしまったことがあり、内閣府から注意して観察されている状況である旨の説明が行われた。山上会長から次の通り補足説明が行われた：法人会計を収支ゼロにしておくのがよいとの会計士からのご提案を受けている；確認したわけではないが内閣府と見解の齟齬が生まれた場合には、公益社団法人の資格を停止され、財産を他に移管しなければならなくなり、活動停止状態にならざるをえない；それは避けたい。

山上会長より、会長と会計理事が把握できているということでご理解いただくよう発言があり、承認された。

A-3. 2024年度総会資料の件（庶務理事）

1 第1号議案 2023年度事業報告の件（庶務理事）

所庶務理事より、資料に従って説明が行われた。氏名等に誤記がある場合はご指摘願う。誤記の訂正は行われる前提で承認いただきたい。

2 第2号議案 2023年度決算報告と監査報告の件（会計理事、根本監事）

後藤会計理事より、資料に従って説明が行われた。

根本監事より、監事報告を受けた。業務監査（年間を通じて各理事の行動・決定に違反がない旨）と、会計監査（口座の残額についても目視で確認）を行い、いずれも問題なかった。

3 第3号議案 2024-2025年度役員承認の件（庶務理事）

所理事より、改選役員について資料に従って説明が行われた。

（報告1 2024年度事業計画書（参考：承認済み））

（報告2 2024年度収支予算書（参考：承認済み））

異議なし。これらの資料にて総会に提出する。

A-4. 2024 年度委員および幹事委嘱の件（庶務理事）

宮川理事より、資料を繰って紹介された。

異議なし。

A-5. 研究部会・グループ追加補助金申請の件（研究理事）

林研究普及理事より、資料に従って説明が行われた。

鳥海無任所理事より、予算計画を審査したうえで認めるというのが妥当ではないか、という指摘あり。懇親会費に不足した場合に充当されると、用途として問題がある。三好副会長より、研究普及理事を務めていたときには RAMP から予算案の提出はあった、との補足あり。会長より、条件付き承認とする。予算案が提出されることを条件とする。ひいては決算書の提出も求める。次年度からも、研究普及委員会で同等の審議を行っていくこと。

A-6. 2025 年春季研究発表会及びシンポジウム計画案（研究理事）

林研究普及理事より、資料に従って説明され、承認されたが、以下の意見があった。

山上会長より、すべてを過去踏襲しなければならないということではないが、懇親会の開催が非常識ではないタイミングでは、できるだけ開催する方向で考えていただきたい。

関谷理事より、何とか標準的な 6000 円の参加費で開催できるよう見積もりを取得中である旨、回答あり。

鳥海無任所理事より、学会賞の受賞者等の懇親会招待者がいる。懇親会不開催の場合は研究発表会参加費を無料とするなど代替策を考えてほしい。

A-7. 2024 年秋季研究発表会・シンポジウム概要の件（研究理事）

林研究普及理事より、資料に従って説明された。

佐々木大会理事より、次の質問が寄せられた：大学からの補助金をいただけることになったので、この資金も利用して講演謝金を増額したいが、可能か？ 林理事から規約に関して即答できない。山上会長から、現職時の経験では国会議員クラスで 30 万円だった。鳥海理事および山上会長から、南山大学から資金提供を受けた旨を注記すれば増額してもよいと考える。

佐々木理事より、懇親会参加費が 7000 円となるが、よいか？との質疑。鳥海理事より、懇親会招待者の分の按分負担を懇親会参加者の参加費のみで均衡するのは厳しいので、シンポジウム、研究発表会、懇親会の全体で均衡を見ることが妥当である。山上会長から、懇親会の予算案が付いていないので、判断できない。林理事からは昨年度の資料を提供して、予算書を作成してもらったが、2023 年春季は懇親会を開いていない

ので参照先がなかった。佐々木理事としては、研究発表会の会議費として懇親会招待分のみを計上した。

山上会長・林理事より、研究発表会、シンポジウム、懇親会の3本立てで予算計画を立てて、合計の収支が概ねトントンになることを示してもらって、審議したい。

林理事より、シンポジウムが大きく赤字であることに懸念が示された。鳥海理事・山上会長より、シンポジウム予算について、諸謝金の旅費 50 万円は何か、と質問あり。佐々木理事より、海外招聘旅費（欧州より）を想定したが、都合がつかなくなって招聘できなくなった旨、回答あり。山上会長から、招聘できなくなったのであれば、それを除いて提出いただかないと理事会で審議できない旨、宣言あり。

林理事・長谷事務局長より、予算書の赤字の部分については決算処理の負担軽減のためにそのまま利用いただきたい旨、共有された。

鳥海理事より確認：アルバイト代の最低賃金は確認済み（愛知県）；印刷製本費の部数が上部の数値と合致しない；スプレッドシートの印刷として複数行が表出していない点を改善してほしい。

山上会長より、総会直後の臨時理事会で、この件だけは審議する。なお、当日の理事会に資料を急に提出するのではなく、林理事と佐々木理事と事務局とを交えて事前に資料をよく確認するように。鳥海理事や山上会長を巻き込んでも構わない。

この理事会では本件を決議しない。

A-8. 研究発表会の発表件数の制限について（研究理事）

林研究普及理事より、経緯の説明が行われた。

発表申込システムについて、鳥海理事より、担当外だが返答：1 申込で 2 件受け付けるという変更は、タイトル欄 2 件目などの欄を付ければ、対応可能。1 件目・2 件目を誤って記載する事例が発生する可能性はある。2 申込とするなら、一人は会員だが、もう一人は非会員として、なんらかの記述等で同一人物であることを判定する必要がある。

山上会長より、理事会で議論する内容ではない、研究普及委員会で再検討するようにとの総括。

A-9. 研究発表会における学会本部から派遣する実行委員の仕事分担の件（研究理事）

林研究普及理事より、合意を得たい案件である旨、説明が行われた。

山上会長より、どの委員会が担当するかというよりも、バイネームで担当者を決めるのが良いと思う旨、発言あり。

猿渡副会長より、「ホームページ」はシステム面、コンテンツ面のどちらを指しているかの確認あり。会場案内といったものは現地でなければわからない。業務プロセスを整理してほしい。

林研究普及理事より、両方だと考えている。コンテンツ面として、現地写真を提供するといったものは現地側から提供するもの。

塩野広報理事：広報委員会としては、サイトの立ち上げまでの担当という認識。

山上会長より、次の指示が出された：業務の棚卸をしなさい。現地の過去の委員長などに意見を聞きなさい。林研究普及理事、承り。佐々木理事も、モデルケースになるようにとの意欲を示された。

鳥海無任所理事より、過去 3 大会分は形が決まっていないので、参考になりにくい旨、注釈が述べられた（前回の筑波大は長谷川庶務幹事が筑波大出身で状況が分かるため、いろいろやっていただいた；前々回の中央大は鳥海がいろいろやった；去年の秋は本部から派遣がなかった）。仕分けには協力する。

山上会長より、やり方を大きく変えようとしている。初回で完璧を目指さないほうがよい。不平不満は会長が受け止める。過去の経験のある人に仕分けに協力してもらうのが良い。

本件、継続審議となった。

A-10. 非常勤職員雇用の件（庶務理事）

宮川庶務理事より、資料に従って説明が行われた。

山上会長からも、待遇改善の妥当性について説明あり。承認。

A-11. 2024 年度総会および理事会日程の件（庶務理事）

宮川庶務理事より、資料に従って説明が行われた。

山上会長より、5 月 31 日の「ミライの学会」シンポジウムを映写して見られるように、鳥海理事に教室確保の依頼あり。承認。

【報告事項】

B-1. 2023 年度後半代表理事職務執行状況報告の件

会長、猿渡副会長、三好副会長、森永副会長より資料に従って報告が行われた。

B-2. OR 学会在り方検討会の活動状況について（庶務理事）

所庶務理事より、資料に従って報告。

会長より補足。理事は公益社団法人として指定された役職。4/26 の総会後に議論の時間を取りたい。

2025 年度を目指す。定款に手を入れる必要があるので、臨時総会を開くか、定常の総会に掛ける必要がある。フェロー会議に上程したり、大会で会長が説明したりといったことも考えている旨、山上会長から補足あり。

B-3. Web ページ関連更新に関して（広報理事）

塩野広報理事より、報告。ホームページの更新方法についてマニュアルを作成した。事務局に更新依頼をするのではなく、支部や研究部会等で自ら更新すること。旧ドメイン（orsj.or.jp）を利用している場合は、至急広報理事に連絡すること。

B-4. 2023 年度研究部会・グループ活動報告（研究理事）

林研究普及理事より、資料冒頭のご紹介。資料は 76 ページに及ぶ。

B-5. 研究発表会におけるキャリアセッションと学生表彰の継続性について（研究理事）

林研究普及理事より、資料の説明あり。

山上会長より、キャリアセッションは完全オープンにするというよりは、会員の教員の推薦があれば参加できるといったハードルは設けてもよい。OR に何らかの関連のある研究をしている学生にアプローチしたいというのが企業側の意向だろう。鳥海無任所理事より、場所が必要とのコメントあり。山上会長より、前は時間が足りなかった。3 分×12 社。春の大会が 3 月以降ではすでに学生は内定を獲得しているため、インターンシップの話題になっていた。秋の大会であれば就職に向けての話となる。

猿渡副会長より、表彰委員会での表彰と、学生表彰の位置付けをはっきりすべきではないか。理事会に上程されているということで、実行委員会の責任で表彰するというところから違う段階に進もうとしているように感じられるため。

B-6. 2024 年度企業事例交流会の開催方針（普及理事）

堀研究普及理事より、資料に従って説明が行われた。

B-7. 2024 年度～2025 年度 OR セミナーの開催方針（普及理事）

堀研究普及理事より、資料に従って説明が行われた。

B-8. 研究発表会における OR キャリアセッションの開催状況（普及理事）

B-5 と内容重複があるためスキップ。

B-9. 2024 年度第 1 回 OR セミナー(可視化)案（普及理事）

B-7 と内容重複があるためスキップ。

B-10 についても話題をスキップしたが、B-11 の後に議事あり。

B-11. 今後の支部長会議の運営方法について（支部理事）

谷崎支部理事より、資料に従って説明が行われた。

山上会長より、理事会には各支部長がオブザーバーとして参加しているので、意見があ

れば理事会でも発言してもらえれば結構である旨コメントされた。

鳥海無任所理事より、1.(3) 項について、誰がどうコントロールすることを想定しているか？との質問あり。山上会長より、支部長の意見が必要だとなったら次の理事会に議案を回す等の運用で回避すればよい、との回答。

B-10. 2024 年度第 2 回 OR セミナー(最適化)案 (普及理事)

フォローアップ会の開催、予算に盛り込む点についての合意形成を図った。

鳥海無任所理事より、過去も現地開催時に講師やオーガナイザーの弁当を予算化して準備し、意見交換することはあった。それと同程度であれば、まったく問題ないのではないか、とのコメントあり。

B-12. 台湾 OR 学会とのコラボレーションについて (研究理事)

林研究普及理事より報告。誰か派遣してもらえないかという台湾からの打診。

山上会長は健康上の理由により航空機を利用した移動が困難。国際理事と相談して進めるように。

B-13. 次回理事会の件 (庶務理事)

宮川庶務理事より報告。

その他. (無任所理事)

鳥海無任所理事より、研究発表会アブストラクトの一般公開が保留になってから 3 回分溜まっている。継続するかどうか審議いただきたい (研究普及委員会と広報委員会)。

山上会長より、学会の方針にも関係するので、方向性が出たら理事会に上程するように、との要請あり。

書記：黒木 裕介

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
2024 年度 第 1 回理事会
議事録署名人

議長(会長) 代表理事 山上 伸

(副会長) 代表理事 猿渡 康文

(副会長) 代表理事 三好 直人

(副会長) 代表理事 森永 聡

監事 三嶋 英俊

監事 根本 俊男